

# 赤十字国際ニュース

2017年 第6号 2017年2月17日  
(通巻 第1208号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-6679-0785

E-mail: [kokusai@jrc.or.jp](mailto:kokusai@jrc.or.jp) <http://www.jrc.or.jp/>

## ■シリア：脅かされる食料の確保

私たちの生活で最も身近にある食料。紛争が6年近く続くシリアでは食料不安が日に日に増し、現在、940万人もが支援を必要としています。なぜここまで深刻な状況になっているのでしょうか。また、十分な機能を果たしていない行政に代わって赤十字はどのようにしてこの危機に立ち向かっているのでしょうか。

## ■農業と畜産業への打撃

紛争前、紀元前8000年には麦の農耕が開始されたといわれるシリアは農業大国でした。国連の報告によると農業はGDPの18%、輸出額の23%を占めていましたが、現在は紛争当事者による農機具や灌漑施設の破壊、農地の占拠などが続いています。避難を余儀なくされる農家や獣医の増加、更には肥料や食用家畜のためのエサやワクチンが不足し、シリアの食糧生産は紛争前の40%にまで落ち込んだとされています。「農業が盛んだったこの国に住む私たちが食料の支援が必要となるとは思わなかった」という声は赤十字の支援を受けている人々からよく聞かれます。

せっかく食糧が生産、収穫されてもそれが人々の手元に届くとは限りません。治安の悪化、道路の破壊、数多くの検問所での足止めなどにより、傷みやすい野菜や果物などの多くは、捨てられてしまっています。



食料を求め、救援物資を運ぶ赤十字のトラックに集まる人々 ©IFRC

これらの理由から、食料価格は高騰しています。紛争前の2011年に50シリアポンドだった米(1キロ)は、2016年に10倍の516シリアポンドにまで上りました。また、紛争前は10%だった失業率は2015年末には53%にまで上り、人々の支援への依存は高まっています。3家族に1家族が食料を買うために借金を抱え、シリア国内で避難生活を送っている半分近くの家が一日三食摂ることができません。多くの人が、新鮮な食料や栄養豊富な食べ物を口にすることもできないことが報告されています。

特に、紛争当事者によって包囲された地域の食料事情は深刻です。国連によると、2017年1月現在、64万人以上が逃げることもできず包囲された地域で生活し、野生動物の狩りや釣り、果実と野菜の採取あるいは外からの支援に頼らざるを得ない状況に陥っています。武装勢力に囲まれ、ヒトやモノが自由に行き来できない包囲地域のあるパン屋は、電気や燃料を十分に確保できないため、材料となる小麦粉の支援を受けても店を開けられない状態が続いています。

## ■長期化する紛争が栄養状態に影響

食事を十分に摂れないと、栄養不足を引き起こします。女性は、妊娠中そして出産後も赤ちゃんに母乳を飲ませるために通常よりも多くの栄養を必要とします。また、子どもは質の高い栄養が足りないと身体的・知的発育が遅れることがあります。シリアでは、微量ながらも健全な成長・発育のために必要不可欠な栄養素であるビタミンやミネラルが不足している人々が全土にいることを国連は報告しています。栄養不足の予防と治療には、食料のみならず、きれいな水や医療・保健サービスの提供なども含めて様々な分野での取り組みが求められています。

## ■多種多様な食料支援

シリア赤新月社が提供する食料は、隣国レバノンからシリア西部タルトゥースにある中央倉庫に陸路で運び込まれ、そこから全土にまたがる14の支部へ届けられます。

支部のスタッフやボランティアは、人々のニーズに基づき、様々な方法で支援しています。戦闘の激化によって急な避難を余儀なくされた人々には炊出しなどで温かいスープなどを提供しています。避難生活の長期化が見込まれる場合は、いつもと変わらぬ食事を摂れるよう、その土地でよく使われる食材を提供します。日本赤十字社はシリア赤新月社のこのような活動を支援するため、皆さまから寄せられた寄付で5000万円の資金援助を実施し、58000人を対象に11600箱の食料パッケージを配布しています。併せて、首都ダマスカス郊外とホムスにて15000人に4000ものキッチンセットを届けています。キッチンセットには、鍋や包丁、ボウルなどの調理器具が含まれており、着の身着のまま逃げた人々が生活を立て直す一助となります。他にも、シリア赤新月社は地元のパン屋からの協力を得て、パンの配給も行っています。現在、ダマスカスでは4つのパン屋にて朝3時からボランティアが活動を始め、避難所などで生活を送る1万人以上に毎日パンを配っています。



日本赤十字社の支援によって配布された5人家族の約1カ月分の食料

## ■診療所の近くに栄養クリニックを運営



栄養状態を知るため、上腕を測定する  
©SARC

シリア赤新月社は、日本赤十字社を含む国際赤十字からの支援を受け、人々の栄養改善にも取り組んでいます。シリア全土で診療所を運営するシリア赤新月社は、栄養支援を必要とする患者さんが訪れた際に対応できるよう、近くに栄養専門クリニックを設置しています。そこに紹介されるのは主に子どもや妊婦、授乳中の女性で、それぞれのニーズにあわせてビタミンやミネラルのサプリメント、ピーナッツバターが提供されます。また、栄養士や医師、看護師が、栄養不足や脱水、下痢の知識の普及や健康指導も行っています。

## ■食料支援が持つ力

食料は、生きる源であるだけにとどまらず、人をつなぐ力も持ちます。「特にありがたかったのは、紅茶と砂糖。ちょっとした家の修理を近所の人をお願いした際、一杯のお茶を出して感謝することができました。お互い助け合いながら、この苦難を一緒に乗り越える力が湧いてきました」と日本赤十字社が支援した食料パッケージを受け取った男性は話します。引き続き皆さまの温かいご支援をお願い致します。

～今回のニュースはいかがでしたか？**ご意見・ご感想**をお待ちしております～

良かった・もっと知りたいテーマや記事、改善してほしい点など下記アドレスにお寄せください。

ご意見・ご感想をいただいた方の中から抽選で毎月1名様に**赤十字グッズ**を差し上げます。

いただいたご意見・ご感想は今後本ニュース内でご紹介させていただく場合があります。

☆☆ 日本赤十字社国際部 [kokusai@jrc.or.jp](mailto:kokusai@jrc.or.jp) ☆☆